

2. 現地普及活動事例の概要

1) 新規参入者の定着が全道一の夏秋どりいちご産地を動かす原動力に！

日高農業改良普及センター

安定し、対象の新規参入者は地域が認める農家として定着している。

1 はじめに

日高東部に位置する浦河町、様似町は夏秋どりいちご品種「すずあかね」を栽培し、主にケーキなどの製菓用として出荷する全道一の産地である(図1)。

当地域の中核産業である軽種馬経営は、販売低迷や高齢化等による農家戸数減少が課題となっており、平成15年から関係機関・団体が中心となって黒毛和種や夏秋どりいちごへの経営転換を推進してきた。浦河町では地域の気象に適し、収益性の高い夏秋どりいちごを更に振興するため、平成19年に浦河町農業担い手育成総合支援協議会が設立され、関係機関が連携し新規就農受入事業に取り組み(表1)、ハウスリース事業など特徴ある支援を行っている。

2 普及の活動内容

普及センターでは新規参入者の経営安定化と定着を支援するため、計画活動の重点課題として浦河町富里ハウス団地に就農した新規参入者(4戸)を対象に、いちごの収量確保による経営の安定化と地域への定着を支援した。新規参入者が安定した収量で所得を確保することを最優先と考え、巡回指導を中心に基本技術の実践を重点に指導を行った。また、普及センターと新規参入者で収量目標を設け、個々の管理技術の問題点を検討・共有し、栽培管理ができているかをお互いに確認しながら活動を進めた。

3 活動の成果

(1) 重点活動の成果

重点地区新規参入者は、目標達成する毎に目標収量を上げて取組を進めた。平成26年と27年には全戸が目標収量の3,500kg/10aを達成し、取組当初の1.7倍に増加した(図2)。経営面では販売額が年々増加し、農業所得率も安定し平成27年は23.9%となった(図3)。収量確保により経営が

(2) 地域への波及

浦河町の取り組みを参考に、様似町でも平成23年に協議会を設立し、夏秋どりいちご栽培での新規就農受入事業に取り組んでいる。重点地区の成果が浦河町と様似町の新規就農受入を後押する形となり、平成27年までに浦河町では8戸、様似町では5戸が新規参入している(図4)。

また、新規参入者の生産実績は地域の既存農家の大きな刺激となり、地域全体の収量も増加傾向にあり、JAひだか東の販売金額は3億に迫っている(図5)。平成27年現在、新規参入者はいちご生産戸数、JA販売数量の50%以上を占め、全道一の産地を支える大きな原動力となっている。

(3) 地域の活性化

平成27年から新規参入者を中心とする浦河町の若手いちご農家が「すずあかねアイス」などいちごスイーツ開発や札幌ドームでのイベント参加(写真1)、町内のお祭りなどで活動し地域にいちごの話題を提供している。

これらの動きを受けて、平成28年に浦河町と様似町は毎年7月15日を「夏いちごの日」に制定しイベントを開催するなど、地域内からもいちごを盛り立てる動きがみられている。

4 今後の取り組み

平成28年に浦河町と様似町で8戸が新規参入し、今後も積極的な就農受入を計画している。これに伴い栽培面積・生産量が増加するためJAでは共選施設の新設が計画されている。

普及センターではこれまでと同様に、関係機関と連携して新規参入者を支援すると共に、更に成熟したいちご産地の形成を図るため地域の一員として一丸となり支援を行いたい。

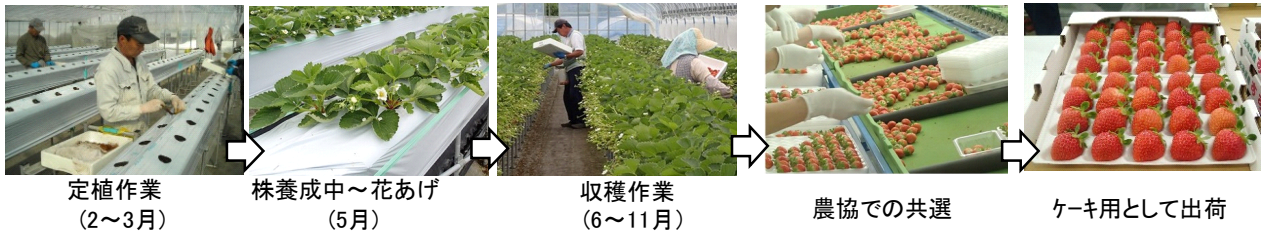


図1 夏秋どりいちごの栽培と共選出荷体制

表1 浦河町における新規就農受入支援体制

	就農相談	研修受入(面談)	就農研修	就農審査	就農時後支援
浦河町役場農業委員会	◎	◎	カリキュラム作成	◎	補助事業 技術支援
JAひだか東(グリーンサポートひだか東)	◎	○	座学 実習受入	○	集荷販売 営農相談
土地改良区	○	○	—	○	営農相談
指導農業士受入農家	◎	○	実習受入	○	技術相談 営農相談
普及センター	○	○	座学	○	技術支援 営農相談

(◎: 主要な担当)

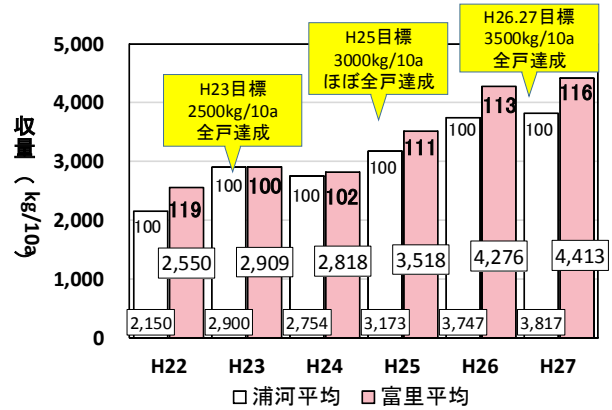


図2 富里新規参入者の平均収量の推移

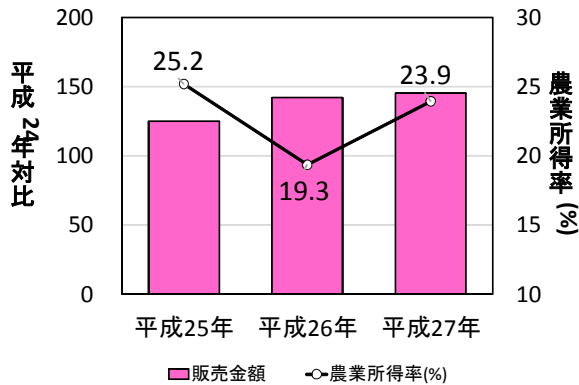


図3 富里新規参入者の経営状況

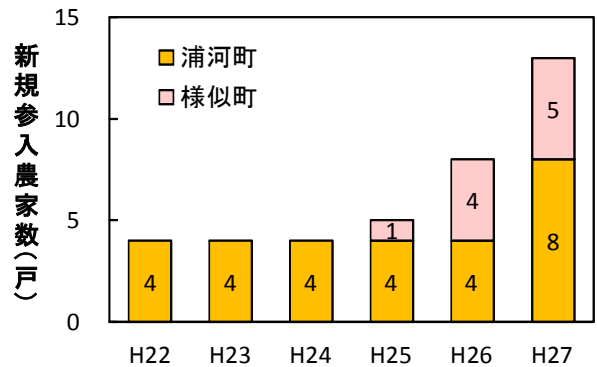


図4 浦河町・様似町の新規参入戸数の推移(延べ戸数)

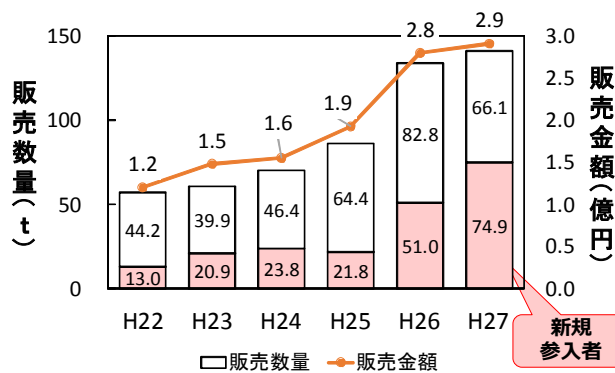


図5 夏秋どりいちご販売実績 (JAひだか東)



写真1 ケーキとアイスの二刀流に大谷投手も絶賛!
(第6回なまらうまいっしょグランプリ参加。2015年浦河町応援大使の大谷投手と白村投手との記念写真。「すずあかねアイスクリーム」が最優秀となるグランプリを受賞)